

41 ヒメマルマメタニシ

(エゾマメタニシ科)

兵庫県ランク:C

Gabbia kiusiuensis

環境省ランク:VU

種の概要

岐阜県以西の本州、四国、九州の中・北部に分布するが、近年は東海や関東でも確認(移入と思われる)されている。生息環境はイナバママメタニシ(貝類Bランク)と同様に水田が主な生息地となる。分布は広いものの、各府県での生息地が極めて限られている。殻長6mm、殻径4mm前後になり、イナバママメタニシよりは小型で細く、多少の変異がある。軟体には黄色から赤橙色の小斑点が多く散在する。

主要な選定理由

| 人為性 | | | 生息環境の特殊性 | | 学術性 | | |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境 | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| ○ | | | △ | | | | ○ |

県内分布

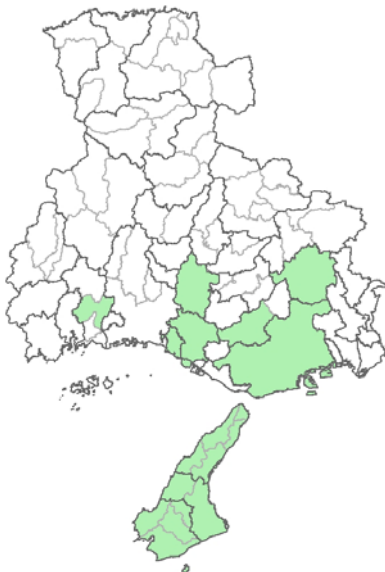
神戸市、三田市、加古川市、高砂市、三木市、加西市、たつの市、洲本市、南あわじ市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。主に加古川流域、淡路島の水田で比較的普通に見られ、特に淡路島では極めて普通に産するなど、他府県では見られない生息状況にあるが、水田耕作の転換により、減少傾向にある。本州側ではイナバママメタニシと分布域や生息環境は重なるものの、混生はしないようである。

保護上の留意点

稲の刈り取り後は初夏の代掻きまで耕耘をせず、湿潤環境を維持することで、冬眠期を安全に確保でき、最大の減少要因を軽減できる。ただし、水田という耕作地に依存している以上、耕作方法は農業者の都合であることから、保護や保全の方策がとれないのが現実である。



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修